

都市再生整備計画 事後評価シート
大崎市中心市街地地区

平成29年3月

宮城県 大崎市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	宮城県	市町村名	大崎市	地区名	大崎市中心市街地地区			面積	99ha
交付期間	平成25年度～28年度	事後評価実施時期	平成28年度	交付対象事業費	2746.3百万円	国費率	0.498		

1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名						
		基幹事業	道路(市道浦町通線、市道会所小路線改良工事)、地域生活基盤施設(地域防災無線)、高質空間形成施設(緑化等)、地方都市リノベーション推進施設(図書館)						
		提案事業	なし						
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし	事業名			削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響
	提案事業	なし							
	新たに追加した事業	基幹事業	道路(東浦留沼線改良工事)		図書館へのアクセス性を高めるため追加			事業内容の変更はなく、影響なし	
	提案事業	なし	土地区画整理事業(大崎市区役所周辺地区区画整理事業調査)			狭隘道路と変則交差点の解消、新庁舎用地の確保及び宅地の再配置による中心市街地の利便性向上を図るため追加			
		基幹事業							
		提案事業	なし		-			-	
	交付期間の変更	当初	平成25年度～29年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		・計画変更に伴う基幹事業の増加や、道路改良及び高質空間形成について、権利者との調整等に時間を要したこと等より、当初の事業期間内での工事完了が見込めなくなったため、事業期間を短縮して調査・測量・設計・用地取得(一部)・工事(一部)のみを行うこととし、工事等の一部事業については本地区で平成29年度から予定している第2期事業へ移行することとなった。変更により、目標1「利便性が高く安全安心な魅力ある都市機能の再構築」及び目標2「公益施設、交流拠点へのアクセス機能強化」達成への影響が考えられるが、平成29年度以降の第2期事業の実施により引き続き整備を進めることで目標達成が見込まれる。			
	変更	平成25年度～28年度							

2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値	目標値		数値		目標	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度						
	指標1	まちなか通行者数	人/日	6,410	H23	7,050	H28	-	6,561	△	ありなし ●	中心市街地の魅力や利便性の向上によって、まちなか通行者数が増加したと考えられる。	-
	指標2	中心市街地の公益施設利用者数	人/年	797,700	H23	946,000	H28	-	869,198	△	ありなし ●	中心市街地の公益施設の魅力の向上によって、利用者数が増加したと考えられる。	-
指標3	防災情報伝達訓練実施回数	回/年	0	H23	1	H28	-	1	○	ありなし ●	公益施設へのデジタル防災無線の整備によって迅速な防災情報伝達訓練が可能となった。	-	

3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値	目標値		数値		目標	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度					
	その他の数値指標1	中心市街地の空き店舗率	%	13.1	H23	/	6.6	/	/	/	事業者への援助や図書館の移転計画等により、中心市街地の空き店舗率の改善が見られたと考えられる。	-
	その他の数値指標2	生涯学習の推進と施設整備についての市民満足度	%	42.1	H23	/	46.2	/	/	/	図書館の移転計画等により市民の満足度が向上したと考えられる。	-
その他の数値指標3	水害、地震への防災対策についての市民満足度	%	36.67	H23	/	45.3	/	/	/	デジタル防災無線や災害公営住宅の整備などにより市民の満足度が向上したと考えられる。	-	

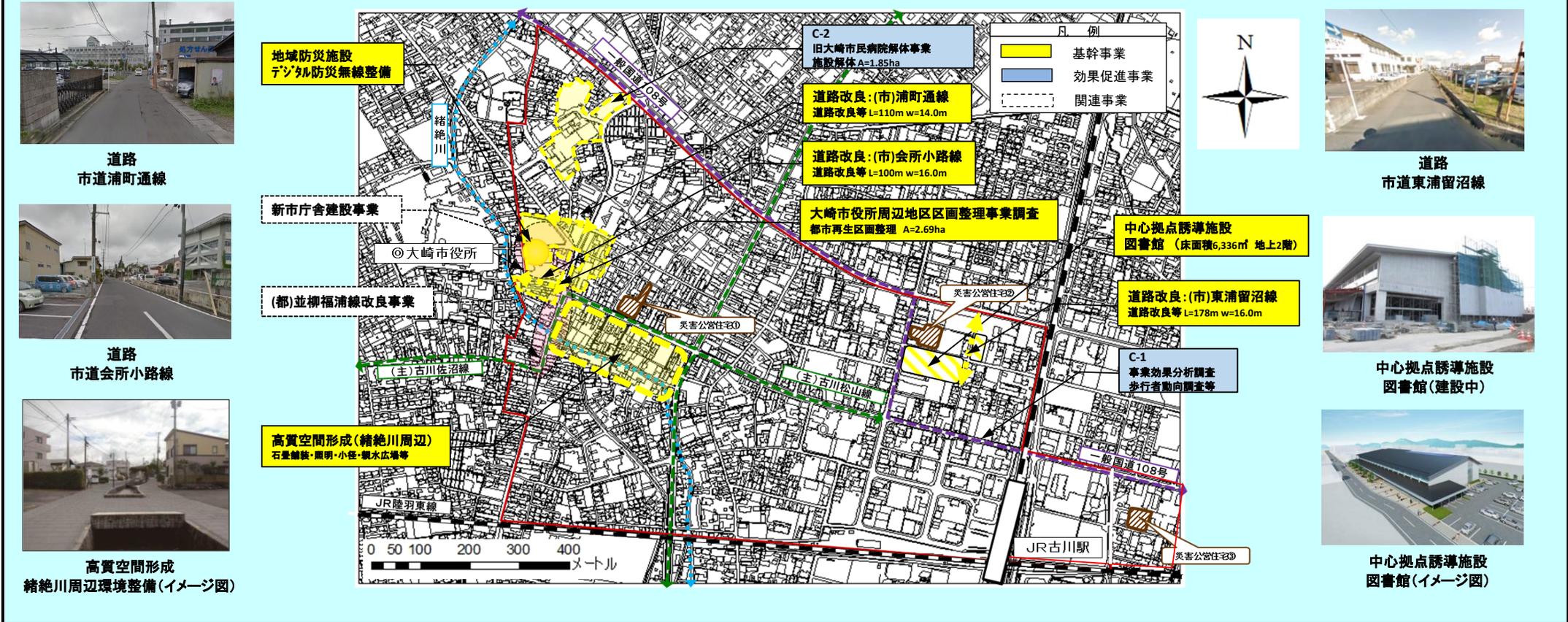
4)定性的な効果発現状況
 ○図書館の整備によって中心市街地における文化・情報機能が充実し、市民文化活動の充実が期待される。
 ○中心市街地における道路の整備によって交通利便性が向上するとともに、歩きやすい歩行者空間の確保が見込まれる。

5)実施過程の評価	実施内容		実施状況		今後の対応方針等	
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	なし
	住民参加プロセス	緒絶川周辺高質空間形成について市民参加による意見交換会や景観形成懇談会を開催した。(計7回)	都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	●
持続的なまちづくり体制の構築	七日町商店街再生加速化支援事業委員会において定期的なイベントを開催し市街地の活性化を図った。また、商店街のチャレンジショップへの間接支援や空き店舗補助金の活用により事業者へ支援を行った。	都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	●	今後も地元商店街との連携・活動支援を行い、中心市街地の活性化を推進する。

様式2-2 地区の概要

大崎市中心市街地地区(宮城県大崎市) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標「都市機能の再構築と歩いて暮らせる社会基盤の形成による利便性が高く魅力あるまちづくり」 目標1: 利便性が高く安全安心な魅力ある都市機能の再構築 目標2: 公益施設、交流拠点へのアクセス機能強化	まちなか通行者数	単位: 人/日	6,410	H23	7,050	H28	6,561	H28
	中心市街地の公益施設利用者数	単位: 人/年	797,700	H23	946,000	H28	869,198	H28
	防災情報伝達訓練実施回数	単位: 回/年	0	H23	1	H28	1	H28



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 合同庁舎跡地を活用した図書館の移転によって、公共施設跡地の有効活用や図書館の文化・情報機能の向上が期待される。 図書館周辺の道路の拡幅や歩道の整備によって、自動車アクセス性の向上や安心して歩ける歩行空間の確保が期待される。 公共施設へのデジタル防災無線の整備や登録メール等の導入によって、緊急時の迅速且つ確かな情報伝達体制が整備され、防災機能が強化された。 災害公営住宅の整備や旧市民病院の解体による広域防災活動拠点整備用地の確保によって、安全・安心な暮らしのための防災機能が強化された。 今後は図書館を中心とした中心市街地の活性化、まちなか通行者数の増加につながる歴史性を活用した賑わいや魅力のある空間の形成、中心市街地へのアクセス性の向上などが課題となっている。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 図書館と周辺の公共施設、商店街、店舗などとの連携の推進や図書館での市民の生涯学習活動や地域活動の推進により、図書館を中心とした周辺地域の活性化や多様な交流の促進を図る。 市役所の建替えと連動した交流・福祉施設の集約整備や観光客にも魅力的な中心市街地の形成により、公益サービス機能の利便性の向上やまちなかの賑わいの創出を図る。 個室や緒絶川周辺の歴史的環境、景観、歩きやすさに配慮した歩行者空間の拡充やわかりやすいサイン(案内板、標識)の整備などにより、古川地域らしい歴史的魅力の活用によるまちなかの回遊性・滞留性の向上を図る。 商店街との積極的な事業連携・支援や中心市街地の狭隘道路と変則交差点の解消等により、中心市街地の活性化とアクセスの向上を図る。 中心市街地の利便性を高めると同時に、防災拠点としての機能を強化するために必要な機能拡充を行い、広域防災活動拠点としての更なる機能の強化を図る。